

二部新入生歓迎セミナー

若洲海浜公園に教職員含め35人

二部学生会が主催する「新入生歓迎セミナー」（豊田直晃実行委員長・経済4）が4月25日、東京都江東区の若洲海浜公園で行われた。

当日は快晴に恵まれ、参加した新入生、在校生、教職員ら35人は、バーベキューやディスカッションを通して交流を深めた。



▲快晴の若洲海浜公園で記念撮影

【ニュース専修5月号6面】

専大校友を訪ねて

地道な調査で発見の喜び

本学所蔵『菊亭文庫』に取り組む特別研究員

田中 幸江(たなかゆきえ)さん(平15大学院博文)



将来を担う優れた若手研究者として、日本学術振興会の特別研究員(平16年度)に選ばれた。取り組む研究は菊亭家(今出川家)の蔵書『菊亭文庫』について。同家は中世から琵琶を家業とし、朝儀においても重要な位置を占めた清華家の一つ。蔵書は京都大学での架蔵が広く知られるが、本学の図書館にも文書、典籍あわせて3448点が架蔵されている事実は、あまり知られていない。

「菊亭家の蔵書にあまり関心が払われておらず、調査研究も不十分なことがあげられます。その全容を明らかにすることは音楽史、歴史学においても、菊亭家の家意識を探る上でも重要な意味を持ちます。と同時に、未公開

資料の紹介は、文学研究に関わらず諸分野においても有意義なものとなるはず」と全容の解明へ意欲を燃やす。

教員志望だった高校時代は夏目漱石など近・現代文学に興味を持ったが、二松学舎大学文学部、本学の大学院文学研究科と進むうち「人間の生々しさと生き様が表れている」中世時代の説話ものにひきこまれた。さらには宗教文学へと分野を広げ、高橋貢教授(現名誉教授)の指導の博士後期課程では、『菊亭文庫』の中の『諸社縁起発端』を考究。昨年、博士(文学)の学位を取得した。中世文学での課程修了博士誕生は本学初のことだ。

現在は、石黒吉次郎教授の研究室に所属し、上野学園日本音楽資料室研究員、二松学舎大、駒沢大の非常勤講師も。

膨大な未資料を丹念に読み解き、一つひとつの裏づけ作業をしながらデータ化していく「気の遠くなるような」地道な作業の積み重ね。博士学位論文の過程で、学会未紹介の同文庫古目録の写しが本学図書館にあるという意義深い発見をした。「証明していく面白さと共に発見の喜びは、前人未踏の地に足を踏み入れた時と同じ感動ですね」。

続けることが力となる。基本に徹し、誠実に—そんな姿勢で研究に取り組みたいと語る。

【ニュース専修5月号6面】